

合同チームで集大成

鳥取商女子ソフトボール部、最後の大会

第52回 鳥取県 高校総体

「鳥取商」ユニホームに誇りを持ち、最終試合で力を出し切ります。1月3日開幕する鳥取県高校総体を最後に、鳥取商女子ソフトボール部が、鳥取県高校総体を最

トボール部は約30年の歴史に幕を閉じる。唯一の現役部員、飼牛萌主将(18)は熱い思いを胸に、合同チームで最後の大会に臨む。同部は、1989年に同好会として発足。しかし部員数の減少により、91年に部に昇格し、県総体の2007年大会までに8強が5度、08年には準決勝へ進出。

同年の中国高校県予選で準優勝し、中国大会に出場した。11年には国体少年女子の県選抜メンバーに同校部員が選ばれ、5位入賞も貢献した。

県総体では野球とソフトの集大成として、本墨打」とバットでもひと疲れを狙う。開会式では選手宣誓の大役も引き受けた。

「支えてくれる人や仲間へ感謝し、試合ができる喜びを伝えたい」と3年間の思いを込め

るつもりだ。

(吉田吉伸)



鳥取商ソフトボール部唯一の部員、飼牛萌捕手は最後の県総体を前に、練習に力を込める=5月27日、湖東中

牛主将は、練習に苦慮した。
「何とか大会に出たい」との思いが美い、今年の県総体は鳥取西の7人に、自校の助つ人1人を加えた9人の合同チームでの出場にこぎ着けた。

飼牛主将のボジョリーンは捕手。「会場内で一番大きな声を出し、チームを盛り上げ、ナイアンを元気づけたい」。小、中学では軟式野球の経験もあり、「最後の県総体では野球とソフトの集大成として、本墨打」とバットでもひと疲れを狙う。開会式では選手宣誓の大役も引き受けた。

「支えてくれる人や仲間へ感謝し、試合ができる喜びを伝えたい」と3年間の思いを込め

るつもりだ。